

2012年(平成24年)7月10日(火曜日)

カンボジア環境研究 塚脇金大教授

アンコール特別顧問に

金沢大環日本海域環境研究センターの塚脇真一教授(五三)が、カンボジアのアンコール世界遺産国際管理運営委員会の特別顧問に就任した。顧問は七人で、遺跡保存・修復(四人)と、塚脇さんが担当する環境・開発・保全(三人)の二部門がある。日本人の就任は全体で二人目で、任期は二〇一四年五月まで。(今宮久志)

世界遺産国際管理委

運営委員会は国連教育科学文化機関(ユネスコ)が主導する。こる。

れにカンボジアが世界遺産の立地国として加わり、日本とフランスの大使館が後援する。特別顧問は世界遺産のアンコールワットとアンコールトムとアンの修復や保全にかかわる十六カ大、ケルン大など六十の調査チーム、また世

カンボジアのアンコール世界遺産国際管理運営委員会の特別顧問に就任した塚脇教授＝金沢大で



から、顧問に推薦されたようだ。塚脇さんが担当する環境・開発・保全に、カンボジア政府は、カンボジア政府が昨年から進めている工コ・ビレッジ事業がある。遺跡の北東にあるルン・タ・エク地区で、農家二百戸が、農場を経営しようとするもの。これまでのところ、一戸あたりの農地

は広いものの、機械を買う資金繰りが難しい。また土壌が石英質で農地に向かないこと。さらに市場や寺院、病院が遠いなどの理由で、予定農家の半分も入っていないという。

「ほかの顧問も同じ考えをもっており、実施は大変なのではないか」と見通す。とはいえ、カンボジアの人たちへの愛着も深い。「近年多い洪水を防ぐなどの仕事をしたい」と抱負を語る。